

2023年度 経営学部卒業時アンケート 択一回答のみ

調査対象：550名（2023年度9月卒業生15名、2023年度3月卒業生535名）

調査実施期間：2023年9月1日～9月30日、2024年3月1日～3月31日

回答者数：493名（2023年度9月8名、2023年度3月485名）

回答率：89.6

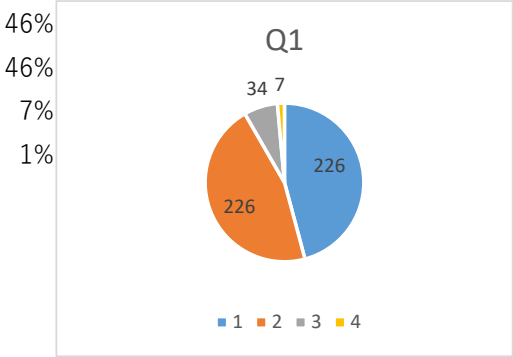
以下の事項について、入学後の総合的な満足度をお答えください。

Q1

●学部の専門分野[講義科目]に関わる教育

1. 満足	226
2. どちらかといえば満足	226
3. どちらかといえば不満	34
4. 不満	7

計 493

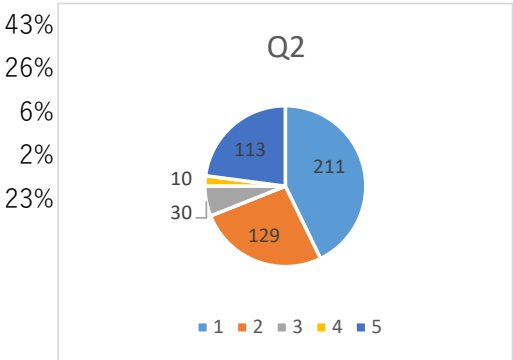


Q2

●ゼミ

1. 満足	211
2. どちらかといえば満足	129
3. どちらかといえば不満	30
4. 不満	10
5. 未所属	113

計 493

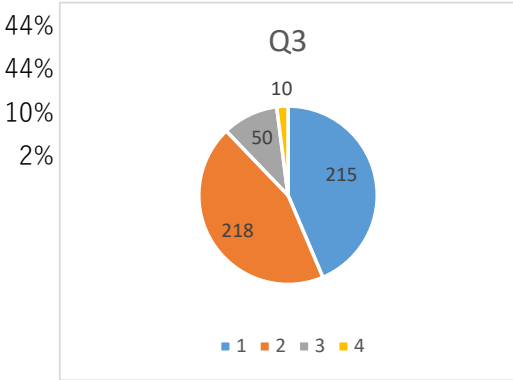


Q3

●就職活動支援

1. 満足	215
2. どちらかといえば満足	218
3. どちらかといえば不満	50
4. 不満	10

計 493



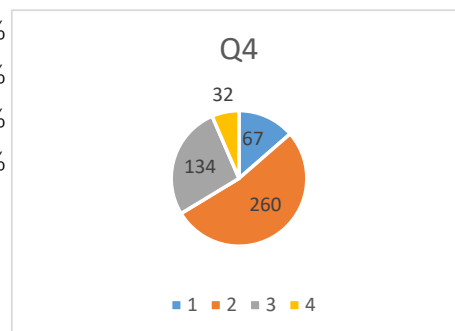
Q4

次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

●教養と外国語について

1. かなり身についた	67
2. ある程度身についた	260
3. あまり身につかなかった	134
4. 全く身につかなかった	32
計	493

14%
53%
27%
6%

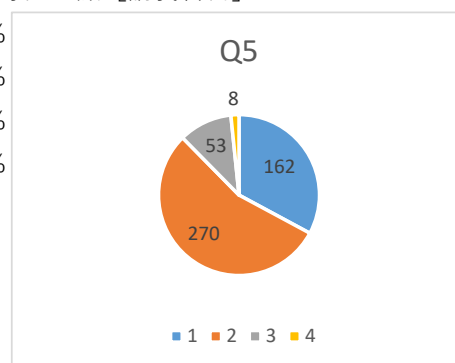


Q5

●経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 [講義科目]

1. かなり身についた	162
2. ある程度身についた	270
3. あまり身につかなかった	53
4. 全く身につかなかった	8
計	493

33%
55%
11%
2%

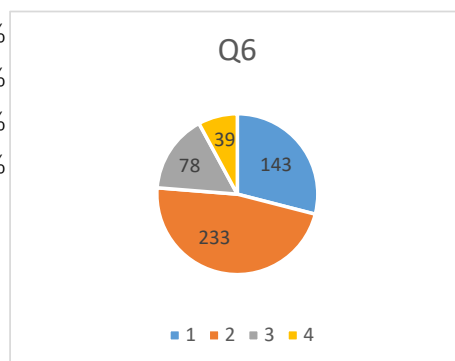


Q6

●現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [ゼミ]

1. かなり身についた	143
2. ある程度身についた	233
3. あまり身につかなかった	78
4. 全く身につかなかった。	39
計	493

29%
47%
16%
8%



【2023 年度 経営学部卒業生アンケート結果からの分析】

2023 年度の経営学部卒業生アンケート結果について、その概要と概括的な分析を試みたい。

1. 調査概要

まず、調査概要は以下の通りである。

調査対象：550 名（2023 年度 9 月卒業生 15 名、2023 年度 3 月卒業生 535 名）

調査実施期間：2023 年 9 月 1 日～9 月 30 日、2024 年 3 月 1 日～3 月 31 日

回答者数：493 名（2023 年度 9 月 8 名、2023 年度 3 月 485 名）

回答率：89.6%

2. 分析結果

（1）入学後の総合的な満足度

まず、「入学後の総合的な満足度」として、「学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q1）」、「ゼミ（Q2）」、「就職活動支援（Q3）」の各質問項目についての調査結果を見てみたい。

（2）学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q1）

当該項目では、「満足」が 46%（2022 年度 46%：以下同様）、「どちらかといえば満足」が 46%（46%）、「どちらかといえば不満」が 7%（7%）、「不満」が 1%（1%）と、昨年度と全て同じ結果であった。92%（92%）が「満足」「どちらかといえば満足」という肯定的評価であり、昨年度同様に当該項目での満足度は高いといえる。

（3）ゼミ（Q2）

当該項目では、「満足」が 43%（44%）、「どちらかといえば満足」が 26%（22%）、「どちらかといえば不満」が 6%（4%）、「不満」が 2%（1%）、「未所属」が 23%（28%）という結果であった。ゼミ所属学生に限定すると、「満足」は 56%（62%）、「どちらかといえば満足」が 34%（31%）となり、ゼミ所属生は総じて満足して卒業したものの、「満足」より「どちらかといえば満足」を選んだ者の比率が高まったといえる。

未所属学生は 4 年次だけゼミ未所属なのか、2 年次から卒業までゼミ未所属なのかが不明であるが、2022 年度から 5 ポイント減少し、2021 年度と同じ 23%であった。

以上より、今後はゼミ活動をさらに充実させ、ゼミ所属生の満足度を高めつつ、ゼミ未所属者を減らしていくための追加施策が検討事項として挙げられよう。

（4）就職活動支援（Q3）

当該項目では、「満足」が 44%（43%）、「どちらかといえば満足」が 44%（43%）、「どちらかといえば不満」が 10%（11%）、「不満」が 2%（3%）という結果であり、88%（86%）が肯定的評価であった。また、「どちらかといえば不満」「不満」という否定的評価が 12%（14%、2021 年

度は15%)と、若干ながらここ数年続けて漸減しているため、就職活動支援の周知の徹底と利用率の向上に引き続き取り組むべきだといえる。

(5) 大学入学時と比較した知識・能力習得状況

次に、「教養と外国語(Q4)」、「経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識(Q5)」、「現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力(Q6)」において、大学入学時と比べてどの程度身についたと思うかについての調査結果を見てみたい。なお、この3項目は、経営学部ディプロマ・ポリシーに即した質問である。

(6) 教養と外国語(Q4)

当該項目では、「かなり身についた」が14%(15%)、「ある程度身についた」が53%(51%)、「あまり身につかなかった」が27%(28%)、「全く身につかなかった」が6%(6%)と、昨年度とほぼ同じ結果であった。「あまり身につかなかった」「全く身につかなかった」という否定的評価が30%を超えていることから、早急に対策が必要であると考えられる。

(7) 経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識[講義科目](Q5)

当該項目では、「かなり身についた」が33%(35%)、「ある程度身についた」が55%(53%)、「あまり身につかなかった」が11%(11%)、「全く身につかなかった」が2%(1%)と、昨年度とほぼ同じ結果であった。昨年度と同じ88%が「かなり身についた」「ある程度身についた」と肯定的に評価しており、十分な成果が得られたと実感しているといえる。

(8) 現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[ゼミ](Q6)

当該項目では、「かなり身についた」が29%(33%)、「ある程度身についた」が47%(45%)、「あまり身につかなかった」が16%(13%)、「全く身につかなかった」が8%(9%)という結果であった。肯定的評価の割合が専門知識(Q5)よりもやや低い76%(78%)であることから、ゼミのみならず講義科目においてもアクティブラーニングを取り入れるなど、アウトプットの機会の拡充が求められよう。

3. 総括

2023年度卒業生の大半は、コロナ禍のために1年次にほぼ全てが遠隔授業となった者である。だが、その満足度及び達成度に関する卒業時の意識においては、ほぼ例年通りの高い評価が得られた。今後の主な課題としては、教養と外国語に対する到達度の向上と、アクティブラーニングやゼミ活動などの充実による問題分析・解決能力の向上に向けて、さらなる努力や工夫を重ねることが挙げられる。